

日本の安全性

URL: <https://youtu.be/FgWV8uqXI70>

今回は「日本の安全性」を学びながら、日本語を勉強しましょう。
この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には " ふりがな " があります。
後半は少しだけ速く (+ 20 %) なり、漢字に " ふりがな " はありません。
学習にお役立てください。

■自己紹介

私の名前は福田優太です。東京都内で一人暮らしをしている、20代の会社員です。仕事は事務職で、毎日電車で通勤しています。

生まれてからずっと日本で暮らしているので、安全であることが当たり前のよう感じてきました。夜に一人で歩いても怖いとは思ったことはありませんし、忘れ物をしても「たぶん見つかるだろう」と思える環境に慣れていました。

以前、外国から来た友人に「どうして日本はこんなに安全なの？」と聞かれたことがあります。そのとき、私はすぐに答えることができませんでした。なぜなら、自分にとって安全な暮らしは特別なことではなく、ごく普通のことだったからです。
でも、その質問がきっかけで、「なぜ日本は安全なのか」と改めて考えるようになりました。

この動画では、私の身の回りで感じたことをもとに、日本がどのように安全な国であるかを紹介していきます。これから日本に来る人や日本に興味がある人の参考になればうれしいです。

■ 街の中

日本にほんの街まちを歩あるいていると、安心あんしんできる場面ばめんがたくさんあります。特に夜とくでも明あかるい場所ばしょが多く、人ひと通りもあります。そのため、一人ひとりで歩あるいていても不安ふあんを感じかんにくいです。女性じょせいや子どもが夜よるに歩あるいている姿すがたもよく見みかけます。これは、多くおほくの国ではあまり見られないことかもしれません。

駅えきや公園こうえんのまわりも整備せいびされています。道みちにごみがおちていることは少すくなく、落書きらくがきもあまりありません。公園こうえんの遊具ゆうぐやベンチたももきれいに保たれています。街全体まちぜんたいが清潔せいけつなので、自然しぜんと落着おいた気持ちになります。

また、交番こうばんが街まちのいろいろな場所ばしょにあります。交番こうばんは、道みちに迷まよった人ひとや、困こまった人ひとが、すぐさつに相談さつできるように、警察官けいさつかんが待機たいきしている場所ばしょです。近くちかに警察官けいがいると思うと、それだけで安心あんしんできます。

日本にほんでは、だれかが困こまっているとき、まわりの人ひとが声こえをかけて助けようとするたすことも多いです。たとえば、道みちに迷まよっている人ひとがいたら「大丈夫だいじょうぶですか？」と話はなしかける人ひとがいます。このような行動こうどうも、安心あんしんにつながっていると思います。

日本にほんの街まちは、目めに見える部分ぶぶんだけでなく、人ひとの行動こうどうや気配きくばによっても安全あんぜんがつくられていると感じます。大きな事件じけんが少すくないのも、こうした日常にちじょうの工夫くふうや意識いしきがあるからかもしれません。

■ 落とし物が戻ってくる

日本にほんでは、落とし物おとしものが持ち主ものもとに帰かえることが多いおほいです。財布さいふやスマートフォン、カギなど、大切な物ものをなくしても、交番こうばんに届けられている場合があります。これは、世界せかいの中なかでもめずらしいことです。

日本にほんで落とし物おとしものを見つけた人ひとは、自分じぶんで持ち主もをさがそうとせず、まず交番こうばんに持もっていきます。交番こうばんでは、いつ、どこで見つけたかを細こまかく記録きろくします。そして、おとし物おとしものの持ち主もが現あらわれるのを待ちます。落とした人おとしが交番こうばんに行くと、本人ほんにんであることがわかれば返かえしてもらえます。

こうした仕組みしくがうまく働はたらいているのは、日本にほんの社会しゃかいに「人ひとの物ものは自分じぶんの物ものではない」という考えかんがえ方がしっかりあるからです。

しょうがっこうでも、「落とし物を拾ったら先生に渡す」と教えられる。子どものころからそうした行動が当たり前だと思われています。

私の外国人の友人も、スマートフォンを電車の中に置き忘れたことがあります。あきらめていたのですが、念のため駅の窓口で聞いてみたところ、誰かが届けてくれていました。友人はとても驚いて、「信じられない。自分の国ではまず戻ってこない」と話していました。

もちろん、すべての落とし物が必ず戻るわけではありません。でも、多くの人々が正直で、知らない人のために行動する気持ちを持っています。その気持ちが、日本の安全や信頼を支えていると感じます。

■ 静かな電車やバスの中

日本の電車やバスの中はとても静かです。まわりの人たちは、大きな声で話すことはあまりありません。友達や家族と一緒にいても、声のトーンを下げて会話をします。これは、他の人のじゃまをしないためです。

スマートフォンで通話することもマナー違反とされています。電車の中で「通話をご遠慮ください」というアナウンスが流れるのを聞いたことがある人も多いと思います。メッセージを送るのは大丈夫ですが、話すのはやめましょう。

子どもにも同じようにマナーが教えられています。学校や家庭で「電車では静かにしよう」と伝えられるため、小学生でも静かに座っていることが多いです。もちろん元気な子もいますが、大人が注意するので静かな空間が保たれています。

また、電車の中では、音を出す機器の使用も気をつけなければなりません。たとえば、動画を見るときはイヤホンを使いましょう。音が外に聞こえると、他の人の迷惑になります。

こうしたルールやマナーがあるおかげで、みんなが落ち着いて移動できます。疲れているときでも、静かな車内なら安心して過ごせます。読書や勉強をしている人もいますし、眠っている人も多く見かけます。

日本の公共交通機関は、ただ便利なだけでなく、まわりへの思いやりによって快適になっているのだと思います。

■地震が起きても冷静な対応

日本では、地震がよく起こります。小さな地震なら、年に何回もあります。大きな地震が来ることもあるので、人々はふだんからそのための準備をしています。

多くの学校や会社では、定期的に避難訓練が行われます。これは、地震が起きたときにどう動けばよいかを練習するものです。机の下にもぐったり、避難場所まで歩いたりします。何度も訓練をすることで、本当に地震が来てもあわてずに行動できるようになります。

また、スマートフォンやテレビからも、すぐに地震の情報が届きます。地震の大きさや場所、津波の心配があるかどうかわかります。日本ではこのような情報システムがよく発達しているため、早く行動を始めることができます。

地域の中には「避難所」と呼ばれる安全な場所があります。地震で家にいられなくなったときは、そこに行って過ごすことができます。避難所では、水や食べ物、毛布などが用意されています。家族と会えなくなったための、集合場所を決めておく人も多いです。

日本人々は、地震が起きても大声を出したりパニックになったりしません。これは、地震に慣れているという理由だけでなく、「まわりの人のことを考えて行動する」意識があるからだと思います。

ふだんから準備をしておくことで、もしものときも落ち着いて行動できる。これが、日本の安全を支える大きな力になっていると感じます。

■警察と交番の役割

日本の町を歩いていると、小さな建物に「交番」という文字を見かけることがあります。交番は、警察官が常にいる場所です。道に迷ったとき、落とし物をしたとき、困ったことがあったときなど、すぐに相談できます。

交番は、駅の近くや大きな通りのそばなど、人が多く集まる場所にあります。とても身近な存在なので、日本人の多くは子どものころから「困ったら交番へ行く」と教えられています。

交番の警察官は、ただトラブルに対応するだけでなく、町の中をまわって見回りをしたり、人に声をかけたりします。これを「巡回」といいます。巡回することで、町のようにすを知り、あやしいことがないかを確認しています。

観光地では、外国語ができる警察官もいます。英語、中国語、韓国語など、いろいろな言葉に対応しているところもあります。外国人が安心して旅行できるようにサポートしているのです。

私も、道に迷って交番で地図を見せてもらったことがあります。警察官はとても親切で、行きたい場所までの道をくわしく説明してくれました。話し方もやさしく、不安がなくなりました。

交番や警察官の存在は、日本の安全にとってとても大きな意味があります。「守る」だけでなく、「助ける」ことができる人たちが、町の中にいつもいる。それが、日本の安心感につながっていると感じます。

■子どもだけで登校できる環境

日本では、小学生が一人、または友達と子供だけで歩いて学校に通うことが多くあります。とくに朝の時間には、小さな子どもたちがランドセルを背負って歩いている姿をよく見かけます。これは、日本ではとても一般的な光景です。外国では、子どもだけで学校に行くことがあまりありません。保護者が車で送ったり、バスに乗せたりするのが普通です。そのため、日本の登校のようすを見て「危なくないの？」と驚く人も多いです。

日本では、地域の人たちが子どもを見守っています。たとえば、通学路には黄色いベストを着た大人が立っていて、子どもが安全に道をわたれるように手伝っています。これらの人たちは、ボランティアとして毎朝活動している場合もあります。

また、子どもたちは「通学班」というグループで登校することがあります。近くに住んでいる同じ学校の子も同士で、時間を合わせて一緒に歩きます。班長とよばれる高学年の子が、まわりの様子を見ながら進みます。

こうした仕組みがあることで、子どもたちは一人でも安心して学校に通うことができます。もちろん、交通ルールや危険な場所については、学校や家庭でしっかり教えられています。

日本の社会には「子どもはみんなで守るもの」という考えがあります。親だけでなく、地域全体が子どもを見守っていることが、子どもたちの安全を支えているのです。

■監視カメラとルールのある日常

日本の町には、たくさんの監視カメラが設置されています。とくに駅、交差点、コンビニ、スーパーなど、人が多く集まる場所ではカメラを見つけやすいです。最初は「見られているようでこわい」と感じる人もいるかもしれません。

しかし、日本ではこのようなカメラの存在が安全につながっています。何かトラブルがあったとき、カメラの映像を使って早く事実を確認することができます。事件や事故の証拠としても使われることがあります。

また、日本にはたくさんのルールやマナーがあります。たとえば、電車の中では静かにする、ゴミは決められた日に出す、エスカレーターでは片側を空ける、などです。細かいルールが多いと感じる人もいるかもしれません。

でも、こうしたルールを守ることで、町の中でけんかやトラブルが起きにくくなります。みんなが「自分だけよければいい」と考えず、「他の人のことも考えて行動しよう」とする文化があります。これが、日本の安全を支える考え方の一つです。

ときどき、「自由が少ない」と感じる外国人もいます。でも、そのかわりに、安心して生活できる環境が手に入ります。ルールは人をしばるものではなく、みんなが安心して気持ちよく生活するために大切なものだと思います。

■日本はいつから安全なのか

「日本はいつからこんなに安全になったのですか？」と聞かれることがあります。たしかに、落とし物が返ってきたり、夜でも安心して歩けたりする社会は、世界でもめずらしいかもしれません。でも、この安全は急にできたわけではありません。長い時間をかけて少しずつ作られてきたものです。

戦争が^{せんそう}終わった^お1945年以降^{せんきゅうひゃくよんじゅうごねん いこう}、日本は^{にほん}社会を^{しゃかい}一から^{いち}作り直^{つくりなお}しました。人々の^{ひとびと}生活^{せいかつ}を守る^{まも}ために、法律^{ほうりつ}や警察^{けいさつ}の^し仕組み^{しく}が見直^{みなお}されました。交番^{こうばん}が町の^{まち}あちこち^{あちこち}に作^{つく}られた^なのもこの^こころです。市民^{しみん}の安全^{あんぜん}を守る^{まも}ための体制^{たいせい}が少^{すこ}しずつ整^{ととの}えられていきました。

1950年代^{せんきゅうひゃくごじゅうねんだい}からは、経済^{けいざい}が急^{きゅう}に成長^{せいちょう}しました。生活^{せいかつ}が安定^{あんてい}し、教育^{きょういく}も広^{ひろ}がり、学校^{がっこう}では「ルールを守る^{まも}」「人^{ひと}に迷惑^{めいわく}をかけない^な」ことがしっ^おかり教^{おし}えられるようになりま^なした。落^おとし物^{もの}を届^{とど}ける、人^{ひと}の話^{はなし}を静^{しず}かに聞^きく、とい^いった行^{こう}動^{どう}が、当^あたり前^{まえ}のよう^なに社会^{しゃかい}の中^{なか}に根^ねづいていきました。

また、日本^{にほん}には昔^{むかし}から「地域^{ちいき}で助^{たす}け合^あう」とい^いう文化^{ぶんか}がありま^なす。子^こどもたち^{どもたち}が一^{ひとり}人で登^{とう}校^{こう}できる^でるのも、大^お人^{とな}たちが見^み守^{もも}ってくれてい^いるからで^なす。警^{けい}察^{さつ}や防^{ぼう}犯^{はん}カメ^らだけ^ではな^なく、まわ^{まわ}りの人^{ひと}の行^{こう}動^{どう}が、日本^{にほん}の安全^{あんぜん}を支^{ささ}えているの^のです。

1990年代^{せんきゅうひゃくきゅうじゅうねんだい}からは、防^{ぼう}犯^{はん}カメ^らや防^{ぼう}災^{さい}シス^てムも使^{つか}われるようにな^なり、技^ぎ術^{じゆつ}の力^{ちから}で安全^{あんぜん}がさ^さらに強^{きょう}化^かされま^なした。今^{いま}では、スマ^まー^あツ^つフ^ふォ^おンでも地^じ震^{しん}情^{じょう}報^{ほう}や防^{ぼう}犯^{はん}の情^{じょう}報^{ほう}を受^うけ取^とることができ^でます。

このよう^{よう}に、日本^{にほん}の安全^{あんぜん}は、戦^{せん}後^ごから今^{いま}までの長^{なが}い時^じ間^{かん}の中^{なか}で、制^{せい}度^ど、教^{きょう}育^{いく}、人^{ひと}の意^い識^しが少^{すこ}しずつ重^{かさ}な^なってで^できたもの^{もの}です。特^{とく}別^{べつ}なこ^ことではな^なく、日^ひ々^じの小^{ちい}さな行^{こう}動^{どう}や考^{かんが}え方^{かた}の中^{なか}に、安全^{あんぜん}の理^り由^{ゆう}があ^あるのだと思^{おも}いま^なす。

■^{かんこうきゃく}観光客^きが気^きをつけること

日本^{にほん}はとて^とも安全^{あんぜん}な国^{くに}ですが、それ^{それ}でも100%安^{ひゃくぱーせん}心^{あんしん}とい^いうわけではありま^なせん。とく^{とく}に観^{かん}光^{こう}客^{きゃく}とし^{とし}て日^{にほん}本^{ぽん}を訪^{おとず}れるとき^{とき}には、い^いくつ^{ちゅう}か注^{ちゅう}意^いしたほうがい^いいこ^ことがあ^あります。

ま^まず、人^{ひと}が^お多^おい場^ば所^{しょ}ではスリ^{すり}や置^おき引^びきに気^きをつ^つけてくだ^{くだ}さい。混^{こん}雑^{ざつ}してい^いる駅^{えき}やイ^いベ^べン^んト会^{かい}場^{じょう}、観^{かん}光^{こう}地^ちでは、カ^かバ^ばンや財^{さい}布^ふをし^しっ^もかり持^もつよう^{よう}にし^しましょ^うう。リ^りュ^{りゅ}ックは前^{まえ}にか^かけるほう^{ほう}が安^{あん}全^{ぜん}です。

また、知^しらな^ない人^{ひと}から話^{はな}しか^かけられ^れたとき^{とき}は、す^いぐにつ^ついて行^いか^かないよう^{よう}にし^しましょ^うう。し^しつこ^こく話^{はな}しか^かけてく^くる人^{ひと}には注^{ちゅう}意^いが必^{ひつ}要^{よう}です。とく^{とく}に夜^{よる}おそ^そくに声^{こえ}を^{けい}かけられ^れたとき^{とき}は、警^{けい}戒^{かい}したほう^{ほう}がよ^よい^いです。

もし、道に迷ったり、トラブルにあってたりしたときは、交番へ行きましょう。
交番では、道案内だけでなく、通訳の電話サービスを使って外国語で対応して
くれることもあります。まわりの人に助けを求めるのもよい方法です。日本で
は、多くの人が困っている人に声をかけてくれます。

もう一つ大切なことは、マナーやルールを理解して行動することです。日本では、
ゴミの分別や公共の場での静けさなど、守るべきマナーが多くあります。
これらを守ることで、トラブルを防ぐことができますし、まわりの人との関係
も良くなります。

安全な国であっても、少しの注意と準備が大切です。それが、日本での旅行を
もっと楽しく、安心できるものにしてくれると思います。

■安全だからこざできること

日本では、毎日の生活の中で「安全」を感じる場面がたくさんあります。たと
えば、夜に一人で散歩したり、電車で居眠りしたりしても、心配になることは
あまりありません。子どもが安心して外で遊べることも、特別なことではなく、
ふつうの風景になっています。

これは、町の中に交番があり、警察官が巡回しているからだけではありません。
人々がマナーを守り、おたがいに気をつかいながら暮らしているからこそ、安
心できる環境が作られているのだと思います。

また、日本では困っている人を見つけたら助けようとする人が多いです。落と
し物を拾ったら届ける、道に迷っている人に声をかける、そういった行動が自
然に行われています。このような社会の中では、人を信じる気持ちが育ちやす
くなります。

私も、ふだんの生活の中で安全を感じることで、落ち着いて仕事ができたり、
新しいことに挑戦できたりしています。安心できる場所にいると、人はのびの
びと暮らせるようになるのだと思います。

もちろん、日本にも問題があります。すべてが完璧というわけではありません。
それでも、「安心して暮らせる」と感じられることは、とても大きな価値だと
気づきました。

にほん あんぜん ひitori ちから おお hito いしき こうどう まも
日本の安全は、だれか一人の力ではなく、多くの人の意識と行動によって守ら
れています。

にほん おとず hito あんしん なか たの じかん す
だからこそ、これから日本を訪れる人にも、その安心の中で、楽しい時間を過
ごしてもらえたらうれしいです。

にほん あんぜんせい
「日本の安全性」は、いかがでしたか？
らん かんそう おし
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
べつ どうが あ
それでは、また別の動画でお会いしましょう。

Japanese-listening-SUSHI

